

NO. 88 25.5.18

S S T L

職場参加ニュース

いーちやいーちや&もやもや



越谷20年のバトンをせんげん台「世一緒」へ 試み開始
職場参加を地域に広げよう

2025年度定期総会・記念シンポジウム・ワークショップ

6月22日(日)越谷市中央市民会館

5階 第4.5.6会議室 13:00受付 13:30~16:30

会費(資料代): 会員 500円 非会員 700円 手話通訳: 依頼中

後援: 越谷市、春日部市 (依頼中)

当日のプログラム

- 13:00~14:10 NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会定期総会
14:20~15:45 シンポジウム「学校、職場、地域 — 人の狭間で人として生きる」
柴田美恵子さん(くらしセンターベしみ通所者)、幡本建祐さん(会社員)、
竹迫和子さん(障害児を普通学校へ全国連絡会世話人)
コーディネーター: 朝日雅也さん(埼玉県立大学名誉教授)
15:55~16:30 ワークショップ「もやもやが 入口のカギ？」

NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会は、21世紀の初め、県内各地の「障害があってもなくても共に学び、共に働き、共に暮らそう」という活動のつながりの中で生まれました。当時の土屋義彦埼玉県知事の「全障害児普通学級籍」宣言(2003年)も、時代を象徴していました。しかし、直後、国は2007年から特別支援教育を本格的実施し、2006年から障害者自立支援法を実施するなど、子ども時代から社会に出た後も、障害の状態や能力に応じて分けて支援する制度を進め、自治体独自の共生施策が消えてゆきました。

そんな中、当会は2015年5月まで越谷市障害者就労支援センターを受託運営し、重度障害者も含めた職場参加、地域参加を進めてきました。また、受託終了後3年間の準備を経て、2018年から障害福祉サービス(せんげん台「世一緒」)に参入し、障害程度、就労能力別に分けられた場から地域・職場に参加し、共に働き、共に生きる足がかりを作ってゆく事例を重ねてきました。今年度、当会は越谷の本部事務所を閉め、せんげん台「世一緒」近くに事務所を移し、「職場参加のB型」が地域・職場にしっかりと根を張れるよう、共同作業を行います。

総会、シンポ、ワークショップを通じて、当会が大事にしている「人と人」の手ざわりを確認し合えればと存じます。

6.22 学校、職場、地域 人の狭間で人として生きる

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会
2025年度総会記念シンポ・ワークショップ

ご 案 内



幡本さん

昨年度は総会の後、そして12月の共に働く街を創るつどいで、二度にわたり出席者全員参加のワークショップを行い、設立から20年余りの当法人組織とそれが担ってきた「職場参加」の活動が直面する「危機」を切り口に、いわば大棚卸を行いました。

そして、明確な方針が出たというほどではありませんが、就労継続B型事業所せんげん台

「世一緒」での「職場参加」の取り組みと、地域、職場からの当法人・せんげん台「世一緒」への参加の試み、それらを後押しする自治体の「職場参加」支援策の推進によって、「灯を受け継ぎ」いでゆこうと考えています。そのために越谷の世一緒も期限付でせんげん台に移転をと

いう流れになってきたところです。

イメージを膨らませてみれば



柴田さん

その中で、あらためて「なぜ職場参加なのか」が問われてきます。「雇用、就労ではなくとも職場参加を」とは、「職業能力や準備性で分けられることなく、誰もが人と人として出会い、一緒に生きることから始めよう」ということです。そうすると、超短時間就労とか、援助付き就労といった可能性も探れるし、「注文をまちがえる料理店」とか「超スローなチケット売場」といった「お客様の職場参加」ができるかもしれません。

とはいえ、社会全体を見れば、非正規雇用

が増大し、社会的格差がさらに深まっており、障害者雇用・就労もその末端に位置づけられています。そんな差別構造の下で、働くということとは？



竹迫さん

すったもんだしながら共に生きて

シンポジストとしてご登場いただくのは、小、中、高を通常学級で、発作や他の友達とのずれやいじめを経験しながら共に育ち、卒業後、地域の企業で働いたりクビになったりしながら共に働いてきた経験をもつ障害のある柴田美恵子さん、幡本建祐さんと、障害児を普通学校へ全国連絡会世話人で元特別支援学校教員の竹迫和子さん。

幡本さん、柴田さんは、地域の学校で学び、高校生活も経験しながら、自分の障害とのつきあいがわからず、孤立やいじめも経験しました。卒業後の職場もなかなか続きませんでした。でも最終的には働き続けられる職場と出会い、かつては鬼ばかりと見えた世間（地域）が、顔と顔がつながる場になりました。すったもんだもありながら共に生きて今があるお二人。なお、進行役は、埼玉県立大学名誉教授の朝日雅也さんをお願いしています。

「すったもんだ」の狭間で会う



朝日さん

「すったもんだ」とは「擦ったり、揉んだり」ということです。二人に限らず、その当時は埼玉全体が急激な都市化で、みんながすったもんだしながら街をつくってきました。

もしも障害とか病気とか特別な配慮が必要な人が身近に入ってきた時、専門家ではないから困る、まちがった対応をしたら取り返しがつかないという意識が広がったのは、この20年ほどのこと。せっかく支援施策が整備されて来たのに、人と人が分け隔てられることも増えてきました。

せんげん台「世一緒」が利用している就労継続支援B型事業も、そんな支援施策の一つです。でもその中の超短時間の一般就労や日中活動の併用の制度なども活かし、障害の重い人たちが障害のない人たちと職場で出会う機会を拡げてきました。狭い道ですが、職場や地域の側からの応答しだいで変わってゆく経験をいっぱいしてきました。人と人との小さな出会いが秘める可能性を探り続けます。

やりました！うんとこしょ 共同除草作業

5月23日(金)午後、生活クラブ生協越谷センターで「うんとこしょ 共同除草作業」が、生活クラブ生協越谷ブロック地域協議会の主催の下、28名の参加により行われた。

生活クラブ生協越谷センターが敷地の雑草の除草を、就労継続B型事業所せんげん台「世一緒」に年2回委託し、作業当日は生活クラブ生協越谷ブロック地域協議会に参加したり連携しているさまざまな団体がそれぞれ関係者に呼びかけたりして、共同作業として行うスタイル。

せんげん台「世一緒」が「施設外作業」という形で生活クラブ越谷センターの職場に参加するとともに、越谷センターおよび越谷ブロック地域協議会に属する生協の支部や各ワーカーズコレクティブ、市民ネットワーク、そして連携して活動するNPO法人障害者の職場参加をすすめる会やNPO法人

人共に生きる街づくりセンターかがし座(わら細工)等が、せんげん台「世一緒」に参加する。

ふだんは見えない

壁で分け隔てられて出会うことのない者同士が、一緒にからだを動かし、自然に役割分担をして、短いことばをかけあって動くひととき。アスファ

ルトに頑固に張り付いていた草が共同作業で片付いていく。

人と人を隔てている仕切りが一瞬はずれ、風が通る。

終了後、越谷センターの2階で、参加者全員の自己紹介と感想を出し合い、越谷ブロック地域協議会の年間計画を話し合い、解散した。



せんげん台「世一緒」メンバーのひとこと
草が多かったので、がんばってやりました。(m s) いっしょうけんめいやって つかれました。(T)
みんないっしょに草取りはたのしかった。でもつかれました。(M N) がんばりました(K W)
たいへんだったけど、気持ちよかったです。(K O) 土がかたくて、とるのがたいへんでした(E T)

一口メモ 「超短時間就労」

本誌2ページに記した「**超短時間の一般就労**」について、??と思われた方も少なくないと思います。ここで簡単に説明しておきます。

日本の障害者雇用促進法は、企業の規模に応じて、障害者を一定数雇うことを義務付けています。その場合、週40時間以上働く障害者を1人とカウントし、週30時間未満20時間以上を「短時間労働者」として0.5人とカウントします。

なお、重度障害者を雇った場合は、1人を2人とダブルカウントします。

(さらに、最近ですが、重度障害者を週10時間以上、20時間未満雇った場合、0.5人とカウントすることになり、これを「特定短時間労働者」と呼ぶことになりました。)

「**超短時間**」とは、このような法の枠に達しない短時間の企業就労を指します。

障害が重かったり、ずっとひきこもってきたりした人達は、週10時間どころか、まずは1時間働くだけで疲れて、その週はその疲れをとるので精一杯という人もいます。その週いっぱいかけて疲れを癒して、

翌週また1時間という働き方からでも、職場に参加すること。その積み重ねの中で、本人、家族、職場がほんの少しずつずれを調整し、徐々に時間も増えて、職場にとって欠かせない働き手となった経験は、そう稀ではありません。

とはいえ、このプロセスは本人、家族、職場にとってこれまでにない期待と不安を迎えるときでもあります。せんげん台「世一緒」の支援員の多くは、当法人が障害者市就労支援センターを受託運営していた時の職員が多く、こうした危機の支援も含めて一定の経験を重ねてきました。

また、「**超短時間就労**」にとって、「離職支援」も大切です。条件を変えて、再チャレンジすることで、問題をこじらせず、長い目で見て、職場、地域がひらかれてゆくことをめざします。

最後に、暮らしの介助や住まい、年金、生保等の情報を得る意味でも、人と人のつきあいが重要です。「**超短時間就労**」とは、社会の中で共に生きることでもあるのでした。

2024年度会費、寄付ご納入ありがとうございました。(五十音順、敬称略)

【正会員会費】会沢完、青木繁明、阿久津康仁、朝日雅也、有竹和子、内野かず子、大坂富男、大田ちひろ、沖山稚子、大塚眞盛、尾谷英一、川口裕之、黄川田仁志、木下恭子、佐藤邦弥、清水泉、高瀬勇、竹内千春、竹迫和子、巽孝子、巽優子、田中利昌、谷崎恵子、辻浩司、辻彩子、友堅由紀恵、中山佐和子、野村康晴、橋本克己、長谷川顕、幡本洋子、原和久、樋上秀、日吉孝子、平岩和好、正木敬徳、松田和子、松山美幸、水谷淳子、水谷浩志、森田譲二、谷塚祥子、山川百合子、山崎泰子、山崎有子、山田裕子、吉田久美子、吉原広子

【賛助会員会費】浅草秀子、岩崎廣司、上野豪志、及木聡、佐藤恵美子、島根淑江、並木理、原田真弓、森田譲二

【団体会員】NPO 法人精神障害者の自立生活をすすめる会、NPO 法人共に生きる街づくりセンターかがし座、春日部市障害者生活支援センターえん、くらしセンターべしみ

【寄 付】植田恵子、大塚眞盛、大槻由佳、小野達雄、清水泉、竹迫和子、田島玄太郎、田中利昌、西村正昭、野村康晴、長谷川顕、山崎泰子、山下浩志、吉田久美子、吉原広子

で あ 出会えないのはなぜ？

だい22かい しょうがいじ ふつうがっこう ぜんこくれんらくかい
第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会

ぜんこくこうりゅうしゅうかい
全国交流集会

さいたま
in 埼玉

わけないで わけないで
あなたのつこうでわけないで

にちじ ねん
日時: 2025年

がつ にち ど にち じ
11月22日(土)、23日(日)

にちじ
22日(土)

ぜんたいかい
全体会: 13:00~15:30

ぶんかかい
分科会: 16:00~18:00

こうりゅうかい
交流会: 18:30~20:00

にちじ
23日(日)

ぶんかかい
分科会: 9:00~10:45

ぜんたいかい
全体会: 11:15~12:30

かきしやう いわつ きえさむしきく
会場: 岩槻駅東口コミュニティセンター

おおくまえきから普通11分、急行8分
東武アーバンパークライン岩槻駅徒歩1分

連絡・問い合わせ先

Email: donokomo1987@yahoo.co.jp

090-4938-8689(大坂)/048-942-7543(竹迫)

主催: 障害児を普通学校へ・全国連絡会

障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉実行委員会

共催: 埼玉障害者市民ネットワーク/(一社)埼玉障害者自立生活協会/埼玉高等学校教職員組合/埼玉教職員組合
/埼玉教育労働者組合/みんな一緒に・埼玉連絡会/どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会

後援: 日本教職員組合/埼玉県/埼玉県教育委員会/さいたま市/さいたま市教育委員会/

DPI 日本会議/ピープルファーストジャパン

協賛: 坂戸たけとんぼの会/共育(ともいく)の会/NPO法人のらんど/埼玉県移送サービスネットワーク/TOKO/
さやまのペンギン村/誰もが共に生きる地域をめざすべんぎん村/キャベツの会・新座共育研究会/地域活動
支援センターめだか工房/NPO 法人とことこの家

わけないで わけないで あなたのつごうで分けないで

第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会in埼玉

34才でセーラー服を着た私

実行委員長 野島久美子

私は小さいころは養護学校だったけどつまらなかった。自分が出せなくて泣いてばかりいて、朝同じ時間にげろ吐いていました。原因はわからないけど、高等部卒業してピタッと止まりました。施設に入って、今度は体が不安定になってきました。それでわらじの会に入って、たまたま東武電車のエレベーターを作る運動に参加して、その時に原みっちゃんという子と出会い、本当に重度障害者で、こんな子をなんで普通学級にいさせるんだと思いました。

家出して一人暮らしをするようになって、猪瀬良太くんたちが地域の高校に行きたいと何度も受検したんだけど入れなくて、社会人の障害者が県立高校受検したらどうかという話が出てきて、じゃあ私も入って10人ぐらいで受検しました。与野高校を受検した私と武内もとみちゃんがダメで、私は2年目に合格しました。

そういうことがあって、でもわたしは大人になって普通学級(高校)に入って楽しかったです。はじめて持った定期券で通学したのがすごくうれしかった。テストがあって0点を初めてもらった。養護学校は勉強できなくても点はくれるから、これが0点だって初めて知りました。通信簿だってきれいに1が並んでいました。1年留年したけど卒業しました。ぜひ埼玉に来て、皆さんの体験も聞かせてください。

開催日 2025年 11月22日(土) 13:00開始 23日(日) 12:30終了

日程 11月22日 全体会 13:00~15:30

シンポジウム「出会えないのはなぜ？」 ファシリテーター:小国 喜弘さん

分科会 16:00~18:00

第1分科会 まずは保育園、幼稚園、学校で会いましょう

第2分科会 みんなが居られる学校とは？

第3分科会 「合理的配慮」を問い直す

第4分科会 “共に学ぶ”と“共に働く”の間を考える

交流会 18:30 ~ 20:00

11月23日 分科会 9:00~10:45 (1日目の続き)

全体会 11:15~12:30 分科会のまとめ、各地のアピール

開催場所

岩槻駅東口コミュニティセンター

住所:〒339-0057 さいたま市岩槻区本町3-1-1 TEL:048-758-6500

※くわしい開催要項・参加申し込みについては7月に全国連会報に入れて配布する予定です

問い合わせ先 Email: donokomo1987@yahoo.co.jp

090-4938-8689(大坂) / 048-942-7543(竹迫)

5月		越谷世一緒&関係団体等行事	せんげん台世一緒活動
1日	木	たそがれ世一緒	おもしろ読書、羊工芸
2日	金	Love Shinkobato プロジェクト	ポスティング、所内作業
3日	土		利用者ミーティング
4日	日		
5日	月		
6日	火		
7日	水	当番会議～すいここカフェ(山田裕子さん)	所内作業
8日	木	たそがれ世一緒	おもしろ読書、羊工芸
9日	金	Love Shinkobato プロジェクト	ポスティング、所内作業
10日	土	荒井敏男さんを語る会	利用者ミーティング
11日	日		
12日	月		野菜収穫? (岡村農園等)
13日	火	熱帯水産の市	ウッドデッキ(野菜園等)
14日	水	かっぱフェスタ	すいここカフェ(竹迫和子さん)
15日	木	かっぱフェスタ	たそがれ世一緒
16日	金	干問台内夏祭1日	Love Shinkobato プロジェクト
17日	土		ポスティング、所内作業
18日	日		
19日	月		NPO法人東後福会協
20日	火		野菜収穫? (岡村農園等)
21日	水	語る会～どうこいしよ～すいここカフェ(水谷隆子さん)	所内作業
22日	木		おもしろ読書、羊工芸
23日	金	干問台内夏祭2日	うんとこしょ共同除草
24日	土		リンカーハット、所内作業
25日	日	一社協王様宮貴白立生協協会総会	うんとこしょ共同除草
26日	月		野菜収穫? (岡村農園等)
27日	火		ウッドデッキ(野菜園等)
28日	水	せんげん台すいここカフェへ	所内作業、野菜販売準備
29日	木	たそがれ世一緒	せんげん台すいここカフェ(菅谷浩一さん)
30日	金	Love Shinkobato プロジェクト	おもしろ読書、羊工芸
31日	土		ポスティング、所内作業
6月		越谷世一緒&関係団体等行事	せんげん台世一緒活動
1日	日		
2日	月		野菜収穫? (岡村農園等)
3日	火		ウッドデッキ(野菜園等)
4日	水	当番会議～すいここカフェ(出村裕子さん)	所内作業
5日	木	たそがれ世一緒	おもしろ読書、羊工芸
6日	金	Love Shinkobato プロジェクト	ポスティング、所内作業
7日	土	テレビ総会	利用者ミーティング
8日	日		
9日	月		野菜収穫? (岡村農園等)
10日	火	熱帯水産の市	ウッドデッキ(野菜園等)
11日	水	すいここカフェ(比嘉克樹さん)	所内作業
12日	木	たそがれ世一緒	おもしろ読書、羊工芸
13日	金	Love Shinkobato プロジェクト	ポスティング、所内作業
14日	土	SEITOKO	利用者ミーティング
15日	日		
16日	月		野菜収穫? (岡村農園等)
17日	火		ウッドデッキ(野菜園等)
18日	水	語る会～すいここカフェ(長谷川麗さん)	所内作業
19日	木		おもしろ読書、羊工芸
20日	金	Love Shinkobato プロジェクト	ポスティング、所内作業
21日	土		利用者ミーティング
22日	日	運営委員会	総会、シンポ、ワークショップ
23日	月		野菜収穫? (岡村農園等)
24日	火		ウッドデッキ(野菜園等)
25日	水	せんげん台すいここカフェへ	所内作業、野菜販売準備
26日	木	たそがれ世一緒	せんげん台すいここカフェ(吉田久美子さん)
27日	金	Love Shinkobato プロジェクト	おもしろ読書、羊工芸
28日	土		ポスティング、所内作業
29日	日	障害児を普通学校へ全国交流集会実行委	利用者ミーティング
30日	月	NPO法人東後福会協	野菜収穫? (岡村農園等)

発達障害 入社後伝えるとわがまま?

「合理的配慮」会社と和解

20代女性「症状は多様 私を見て」

2024年12月、広島地裁で1件の民事訴訟の和解が成立した。一般採用枠で働いていた発達障害のある20代の女性が、働く際の合理的配慮をめぐり、勤めていた会社を訴えた裁判だった。採用された後に障害の特性を伝えることは「わがまま」なのか? 訴訟を終えていま、女性の思いを聞いた。

(鈴木彩子)

20代の女性は幼い頃から、物事を分析的に考える子でもあった。小学生の時、自閉スペクトラム症と診断された。

早く特性がわかったのは、女性にとってよかったという。人とは少し違つてを踏まえて、入念に備えて対処できた。

スケジュールや書類は何度もチェックする。聴覚過敏は、耳栓をすることとつとラックになる。自分なりの工夫を重ねた。

2020年4月、得意とする「分析的な思考」を生かせるように、おもちゃのメーカーに就職した。おもちゃの仕組みを考えるのが好きだった。商品を企画する部署でバリバリ働いた。

発達障害の診断を受けてはいたが、日常生活に困ってはいなかった。会社には特段伝えず、一般採用枠で入社した。

ただ入社後に、社外カウンセラーと雑談をする中で、障害者雇用を理解がある会社だと聞いた。「困っていることがあるなら、この会社なら、伝えた方がよい」と助言された。

ずっと働きたい、と思っていた。配慮がなくても仕



民事裁判をたたかった経験を話す女性

たらうれしい」として伝えた配慮は、耳栓の使用や、書類のダブルチェックなど、会社にとってそれほど負担になるとは思えないことだった。

でも会社からは、担当していた商品企画の仕事から外れるように指示された。毎日、雑用とゴミ出しを強いられ、「対話」ができないうまま時間がすぎた。やがて会社は、パート勤務への切り替えを提案してきた。断ると退職勧奨をされ、期限が区切られた。追いつめられ、21年12月に退職した。

地元に戻り、友人たちに相談すると「それ、おかしいよ」と言われた。自分だけが困る問題なのか。客観的にみてもおかしいのかを確認したい。そう思って、無料の法律相談に電話をすると、弁護士は「引き受けるよ」と言った。打ち合わせを重ねて、23年2月に広島地裁に民事訴訟を起した。

SNS上では「入社後に障害を開示するのは、後出しだ」「能力不足があったのでは」「など心ない批判も受けた。でも、同じように苦しむ人の助けになるならば、と自身を奮い立たせた。裁判は、24年12月に和解が成立した。和解文書には、会社側が遺憾の意を示すこと、解決金を支払うこと、

法が認めた権利／職場で不利益感じる人も

16年に施行された改正障害者雇用促進法は、障害がある人が必要な配慮を伝え、職場内で対応する「合理的配慮」を義務づけている。ただ違反しても罰則はない。

合理的配慮を求めるのは、法律で認められた権利だが、実際には「わがまま」と捉えられてしまうケースも多い。

人材サービス会社レバレジーズが23年に行った調査によれば、精神障害や発達障害を職場に開示せずに働いていた経験がある人は5割を超えた。開示して働いた人のうち3〜4割は、「採用されにくいと感じた」「応募できる求人に限られた」「キャリアアップがしづら

いと感じた」などの不利益を感じていた。女性が勤めていた会社は取材に、「障がい者の雇用に関する取り組みは、従前弊社でも進めてまいりましたが、より一層の改善に努めてまいります」と回答している。

「合理的配慮」という日本語訳の「配慮」は、「気遣いのこもった取り計らい」といった意味があり、受け入れる企業等の「思いやり」のように錯覚されやすいのです。この記事の社長自身は「思いやり」があると自負しているにもかかわらず、女性が採用時に発達障害を隠していたから適切な対応ができず、4年も過ぎてから「思いやり」が足りなかったかのように「配慮」を求められるのは心外だと考えたのでしょう。

しかし、「合理的配慮」は上記の解釈とは異なり、あくまでも「障害者からの申し出」により始まること、法の条文にも明記されています。「後出し」という非難は見当はずれです。障害は重要な個人情報であり、一律に開示する義務はありません。

また「合理的配慮」は事業主に対して「過重な負担を及ぼさない限り」と法に明記されていますが、その後も事業主は「障害者の意向の尊重」や「建設的対話」に努めなくてはならないとされています。

す い ご ご F L A S H



●2月19日 山脇雅史さん

(さすらいのカルimba奏者) 9



就職先取り消しをきっかけに地域と関わりを深め、教会や運動など多様な場に参加。2020年に出会ったカルimbaを毎日演奏・配信し、眠りを導く音として反響を得ている。当日は演奏を交えつつ、家族や生活のことを語り、参加者にも演奏体験を勧めた。深刻さや曖昧さも含んだ語りが、ゆるやかに場を包み込んだ。

●3月12日 樋上 秀さん

(誰もがくらしやすいまちづくり実行委員会代表)



「トイレの話をしよう」と題し、公衆トイレ宿泊体験やバリアフリールームの課題を紹介。参加者に「トイレに住む」か「トイレのない家に住む」かを問う投げかけも。越谷駅前に多目的トイレの設置を市長に提言した経験も語った。食の話と同じように、もっとトイレの話ができる社会にしたいと訴え、「人は一生のうち3年をトイレで過ごす」と締めくくった。

●3月19日 前田 直哉さん

(風の学校、べしみ、職場参加 統一団体所属)



幼少期から高校時代まで風のように自由で波乱に満ちた人生を送り、「風の直哉」と呼ばれることも。中学時代にはいじめ、高校では登校拒否や留年を経験しながらも、学びを続けてきた。青春時代から恋や憧れをテーマに絵を描き続け、芸術や文学、福祉を学びたいという思いもある。現在は元気を取り戻し、これからも自分らしく学び、人生を歩んでいきたい。

●4月16日 大塚里奈さん

(ケアシステムわら細工新人職員)



2017年に米ボストンCILでの研修を通じ、「あなたの障害とは助けを必要とする機能」だとずばり定義されたことに衝撃を受け、自分の生き方を見直した。以後、自分のペースで生きること自信を持てるようになりました。あの一日の経験がなかったら、ここにいなかったです。人生の最高のカルテが、もらえたんです。現在はわら細工で働きながら、自らの経験を語り、周囲とつながる姿勢を大切にしている。

●4月30日 日吉孝子さん

(当法人理事・事務局員)



若い時生きてるのが辛かった。けど、青い芝とか全障連やってる中で、自ら声をあげていくことが大事だと感じた。それからだに叩き込まれてると思います。私個人の思いだけど、障害者だけじゃなくて、普通の人もきつい。この先どうなるか分からない。けど、そこでしぶとく生きていくしかない。しぶとく周りの人に声かけで行って、自分たちが街の中にはびこっていくことで、世の中少しずつ変わっていくんじゃないか。1ミリでもわかりあえることを発見して行かないと、世の中はつながっていかないと思うんです。

●5月7日 山田裕子さん

(越谷市議・越谷市民ネット)



3度目のすいごごカフェ登場。3月議会では、市政運営・職場参加・こども・農業・インクルーシブ教育の5項目を代表質問。非正規職員の矛盾や障害者の職場実習の在り方、こども基本条例の未整備、イネカメムシ被害と農業支援、就学相談の周知不足などを指摘。また、「整いすぎる」ことで失われた公園の風景や、横になれない「いじわるベンチ」の設計への悔い、クルド人へのヘイトスピーチ対策として議会での研修提案を語った。共生の大切さを訴えた。

職場参加つれづれ草



いくことになりました

すどう まさはる

いつまでもこのようになるように、これからそのような時間によって、いつまでもこれからのじかんによってそのようにこれまでのじかんについて、いつまでもこれからについてそれからにより、いつまでも、しごととしごとによりこれからによることもある、

いつからのしごとについていつまでも、しごとについてこれによるついによりいつからじかんについていつからもしもんによって、答えをつくりかけあわせるようにみせるようになる、いつもしごとをやるようにみせる、みせるようにする。

最近思うこと

酒井

毎日楽しく生きようと考えていて、思うようにいかず、イライラすることも多くなってきた、自分を見つめ直すきっかけかもしれないと感じ

ています。

山崎農園をやっています

柳場

山崎農園をやっています。きゅうりとなす、インゲン、ミニトマトを植えました。頑張ります。

よいしよにきてから

黒田正巳

よいしよに来たときは、生きる希望もなかったです。その後、山下さんたちと一緒にいろんな活動をするにつれて、前向きになってきました。今考えると、よいしよに来ていなかったら、生きていたかもわからないです。きたおかげで色んな外での活動もできるよになりましたし、知り合いもいっぱいできてよかったです。

グループホームの見学

徳永忠義

水曜午前にグループホームの見学に行った。やっぱり今住んでいるところがいいと思いました。

メルス春日部について

高野

初めて行ったのが一年と六か月前になります。初めは何の仕事をするのも、分かりませんでした。少し慣れてから、少しずつ仕事を覚えようになりました。今は、おみくじの仕事などいろいろ仕事を少しずつやっています。これからも頑張っていきたいのでどうぞよろしくをお願いします。

語る会に参加して

久保田栗子

今日の語る会はおくこうざぶろうさんと会えると思いました。それなのに、残念ながら奥高三郎さんに会えなかったらものすごく寂しいです。今日ひさしぶりに語る会よいしよ10時に来ました。

仕事について

K

そうじの仕事をしています。まだ慣れませんが慣れるように頑張ります。

よいしよのどんわばん

とものゆきえ

よいしよのどんわばん毎週金曜日しています。さいきはよいしよのどんわばん具合悪くて寝込んでやすんでいました。わたしがよいしよにきたころ、どんわばんのしごとがあるけれどどうですか、と。話が合ってよいしよの電話番号に来ることにしました。

最近嬉しかったこと

森住 由香里 10

4月2日、おばあちゃんが83歳で亡くなってしまったんですが、それはそれはとてもつらかったでも嬉しいことは娘に会えてたくさん話ができて私より大人になっていました。思うことはたくさんありますが、おばあちゃんが会わせてくれたような気がします。

ゴールデンウィーク

中田

5月3日私と、母さんと、とおさんと一緒に田舎に行ってきます。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

